

授業課題	英語を用いて積極的に発信する態度や能力を育む指導の在り方 ～学習への動機付けと意味のある自己表現( Writing & Speaking )活動の工夫を通して～
授業に関する ハワイ大学での 研修内容	★① 「道具的動機付け」と「統合的動機付け」を行うことは英語学習への良い動機付けとなる。 ★② 英語によるインタラクティブなコミュニケーションの実践を図るためには「意味のある言語学習」が必要となる。 ★③ 「書くこと(Writing ライティング)」は、論理的思考を育むための重要なプロセスとなる。

## 1 単元名 PROGRAM 10 So Many Countries, So Many Customs. (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 開隆堂)

## 2 目標

- more/most/better/best を用いた比較級・最上級の表現を使ったコミュニケーション活動に積極的に取り組もうとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- more/most/better/best を用いた比較級・最上級の表現を使って適切に話したり書いたりすることができる。(外国語表現の能力)  
(「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標との関連→ **話すこと①**・**書くこと①**)
- more/most/better/best を用いた比較級・最上級の表現を聞いたり読んだりしてその内容を正しく理解することができる。(外国語理解の能力)
- more/most/better/best を用いた比較級・最上級の表現の形・意味・用法及び異文化における生活習慣や言葉の使い方の違い等について正しく理解することができる。(言語や文化についての知識・理解)

## 3 単元について(2年\*組 男子\*名, 女子\*名, 合計\*名)

## (1) 単元観

本単元は、PROGRAM 9 で学習した比較級・最上級の用法を踏まえながら、2つのものを比べたり最も程度が高いことを言ったりする別の言い方を用いて、身の回りものについて表現するためのコミュニケーション能力の基礎を養うことをねらいとしている。

## (2) 生徒観

本学級は、学習活動にまじめに取り組む生徒が多く、英語のコミュニケーション活動にも意欲的に取り組む。全体的に明るい雰囲気、問いかけに対する反応も良い。一方、学習内容が増えるにつれ、基礎・基本の定着が不十分となり、「よく理解できない」「あまり表現できない」という理由から、英語学習への自信を十分にもてず、活動によっては消極的な取り組みの様子も見られる。

英語学習における4技能に対する意識についてのアンケート(複数回答可)				
男子*名 女子*名 合計*名 (平成29年1月実施)				
質問項目	話す	聞く	読む	書く
1. 英語学習で得意だと感じている活動は何ですか。	*名	*名	*名	*名
2. 英語学習で苦手だと感じている活動は何ですか。	*名	*名	*名	*名
3. 英語学習で身に付けたい力・伸ばしたい力は何かですか。	*名	*名	*名	*名

アンケートの結果からは、英語を理解する力(聞く・読む)よりも英語で表現すること(話す・書く)を苦手と感じる一方、表現する力を身に付けたい、伸ばしたいと考えている生徒が多いことが分かる。話す・書く活動に重きを置くことで、表現する力を高め、苦手意識を払拭することが必要と思われる。中学校学習指導要領解説外国語編には、改訂における改善の基本方針として、「自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視する」ことが示されている。そこで、本単元においては、話すこと・書くことを学習活動の中心に据え、それらの能力の育成を重点的に行っていくこととした。

既習事項(疑問文及びその応答文)の定着度を測る確認テスト							
男子*名 女子*名 合計*名 (平成29年1月実施)							
1. 次のような日本語を英語でどのように表現しますか。英単語1つで答えなさい。①～④は、その単語の比較級を書きなさい。							
①「背が低い」 short	正答*名	誤答*名	無答*名	④「若い」 young	正答*名	誤答*名	無答*名
shorter	正答*名	誤答*名	無答*名	younger	正答*名	誤答*名	無答*名
shortest	正答*名	誤答*名	無答*名	youngest	正答*名	誤答*名	無答*名
②「大きい」 big	正答*名	誤答*名	無答*名	⑤「難しい」 difficult	正答*名	誤答*名	無答*名
bigger	正答*名	誤答*名	無答*名	⑥「面白い」 interesting	正答*名	誤答*名	無答*名
biggest	正答*名	誤答*名	無答*名	⑦「重要な」 important	正答*名	誤答*名	無答*名
③「幸せな」 happy	正答*名	誤答*名	無答*名	⑧「～より」 than	正答*名	誤答*名	無答*名
happier	正答*名	誤答*名	無答*名				
happiest	正答*名	誤答*名	無答*名				
2. 次のような日本語の文を英語でどのように表現しますか。英文を書きなさい。							
⑨「ドラえもんがスネ夫では、誰が背が高いですか。」 Who is taller, Doraemon or Suneo?	正答*名	誤答*名	無答*名				
⑩「スネ夫の方がドラえもんより背が高いです。」 Suneo is taller than Doraemon.	正答*名	誤答*名	無答*名				
⑨「5つの中でどれが一番新しいボールですか。」 Which is the newest ball of the five?	正答*名	誤答*名	無答*名				
⑩「赤いボールが一番新しいです。」 A red ball is the newest.	正答*名	誤答*名	無答*名				

確認テストの結果からは、ほとんどの語彙について、原級・比較級・最上級の正答率が\*%前後となっており、定着が十分ではないと言える。また、単純な綴りの間違いによる誤答だけでなく、全く書くことができず無答としてしまう生徒も少なくなく、理解力・表現力については個人差が見られる。また、前単元での学習内容である比較級・最上級の語形変化や比較級・最上級を用いた質問・応答の表現の定着も十分とは言えない。そのため、本単元では、主に前単元での既習事項を取り入れながら新出事項についての学習を進めていくことで、理解力・表現力を高めていく必要があると考える。

(3) 指導観

本単元の教材内容や生徒の実態、中学校学習指導要領解説外国語編に基づき、英語を用いて積極的に発信する態度や能力を育む指導を実践したいと考えた。そこで、ハワイ大学での研修を通して学んだ第二言語の教授法の中のいくつかを取り入れることとした。

Dr. Richard Schmidtによる第二言語の学習者への動機付けに関する理論に基づき、まず、"Instrumental Motivation"「道具的動機付け」としてルーブリックを活用することとした。活動前に生徒に評価の指針を示すことで、各自が本時の学習活動における到達目標を確認し、学習への意識・意欲を高められるようにする。活動後には自己評価を通して到達度を確認することで、自信や今後の課題をもてるようにしたい。

次に、"Integrated Motivation"「統合的動機付け」の一つとしてDr. Kenton Harschによる第二言語の教授法である"Meaningful Language Learning"「意味のある言語学習」を取り入れることとした。これは、課題解決のために英語を使用する必然性のある活動のことであり、第二言語の習得にはインタラクション（お互いに自分の考えや気持ちを発信し、交換し合う）を取り入れることが必要であるという理論である。

中学校学習指導要領解説外国語編の2内容(1)言語活動(イ)言語活動の取扱いには、イ話すこと(イ)「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。」及びエ書くこと(エ)「身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。」とある。その実践のためには、文法や単語、表現を練習したり覚えたりするだけでなく、生徒自身に関する内容を盛り込むことが不可欠であり、このことが「意味のある言語学習」になると考えた。

さらには、Dr. Sandra McKayによる"Approaches to Teaching Writing"「ライティングの指導に関する理論」を応用し、「話す活動」の前に「書く活動」を取り入れることで、英語を表現する上での論理的思考を育み、表現する力を高めるための手立てとしていきたい。また、Controlled Compositionを通して英文を書くことへのハードルを低くすることで、「書く活動」を苦手と感じたり、自分の考えや気持ちなどを適切に書くことができない生徒への支援の手立てとしていきたい。

加えて、3・4人でのグループ活動を取り入れ、生徒が共に学び合う場として活用する。この「協同的な学び」の中で、生徒がお互いに支援し、認め合うことで、「よく理解できた」「思うように表現できた」という達成感や喜びを味わい、英語学習への自信や意欲をもたせられるようにしていきたい。また、グループ活動を「書くこと」や「話すこと」によるインタラクションの場として活用していきたい。

4 学習計画（6時間扱い）

時	主な学習活動	評価の観点（評価方法）			
		コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
1	比較級 more/最上級 most を用いて複数の人や物を比べながら描写する。		more/most を用いて複数の人や物を比べながら描写できる。(ワークシート・発表)		more/most が含まれた表現の形・意味・用法を理解できる。(ワークシート・発表)
2	比較級 more/最上級 most が含まれた表現の内容を聞き取ったり読み取ったりする。			more/most が含まれた表現の内容を聞き取ったり読み取ったりできる。(ワークシート・発表)	オーストラリアと日本における生活習慣の違いについて理解できる。(観察・発表)
3 本 時	比較級 better/最上級 best を用いて自分や友達が好きな人や物について他の人や物と比べながら描写する。		better/best を用いて自分や友達が好きな人や物について他の人や物と比べながら描写できる。(ワークシート・発表)		better/best が含まれた表現の形・意味・用法を理解できる。(ワークシート・発表)
4	比較級 better/最上級 best が含まれた表現の内容を聞き取ったり読み取ったりする。			better/best が含まれた表現の内容を聞き取ったり読み取ったりできる。(ワークシート・発表)	オーストラリアと日本における生活習慣の違いについて理解できる。(観察・発表)
5	様々な比較級/最上級が含まれた表現の内容を聞き取ったり読み取ったりする。			様々な比較級/最上級が含まれた表現の内容を聞き取ったり読み取ったりできる。(ワークシート・発表)	外国と日本の文化・習慣の違いについて理解できる。(観察・発表)
6	比較級/最上級が含まれた表現を用いて身近な人や物について尋ねたり答えたりする。	尋ねたい内容が相手に伝わるように、身近な人や物についての英文を書いたり話したりしようとする。(観察・発表)	比較級/最上級が含まれた表現を用いて身近な人や物についての英文を書いたり話したりできる。(ワークシート・発表)		

◎「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（第2学年）

話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと
①身近な話題について、自分の考えや気持ち、事実などを述べるができる。 ②身近な話題について、尋ねたり答えたりすることができる。	①身近な話題について、尋ねたり答えたりする英文を書くことができる。 ②教科書や辞書、モデルを参考にしながら、まとまりのある5文程度の英文を書くことができる。	①教科書の英文や身近な話題に関する英文を聞いて、その概要を理解することができる。	①まとまりのある英文を繰り返し読んで、その概要を理解することができる。

5 本時の指導

(1) 目標

- better/best を用いて自分や友達が好き人や物について他の人や物を比べながら描写できる。  
(外国語表現の能力)
- better/best が含まれた表現の形・意味・用法を理解できる。  
(言語や文化についての知識・理解)

(2) 準備・資料

ワークシート, ルーブリック, 掲示物

(3) 展開

(・配慮事項 ◎個に対する手立て ○評価)

学習活動・内容	時間	援助・指導の配慮事項	
		T1 (JTE)	T2 (ALT)
<p>1 Warm-up (ウォームアップ)</p> <p><b>Quiz Game</b></p> <p>ゲームを通して既習の語彙や表現を復習しながら本時の学習活動への意識を高める。</p>	5分 グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• モデル会話を通して見本を示し、生徒の理解を促す。</li> <li>◎ 活動を円滑に行えない生徒には、発音や意味のヒントを与えたり相手になったりして支援する。</li> </ul>	
<p>2 Today's Target (本時の学習課題) ★①</p> <p><b>Let's enjoy Q&amp;A! 2組のアンケートを行おう!</b></p> <p>(1) 本時の学習課題と活動内容, 到達目標を確認する。</p> <p>(2) Oral Introduction を聞き, 比較級や最上級を用いた質問・応答の表現を確認する。</p>	8分 一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本時の学習課題と活動内容 (better/best が含まれた比較級や最上級を用いて人や物を比べて質問し合うことで, 友達の趣味や嗜好を理解する活動) を示すとともに, 到達目標をルーブリックを用いて提示し, 生徒の学習活動への意識を高める。</li> <li>• モデル会話を通して, 比較級や最上級を用いた質問・応答の表現の用法についての理解を促す。</li> <li>◎ 理解が深まらない生徒には, 簡素な表現を繰り返し聞かせることで理解を促す。</li> </ul>	
<p>T1 : Which do you like, Doraemon or Anpanman?</p> <p>T2 : I don't like Doraemon. I don't like Anpanman.</p> <p>T1 : Which do you like <u>better</u>, Doraemon or Anpanman?</p> <p>T2 : I like Anpanman <u>better than</u> Doraemon.</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>• better が含まれている表現では, 2つの中の1つを選ぶ必要性が生じることを提示する。</li> </ul>
<p>T1 : I like Doraemon <u>better than</u> Anpanman.</p> <p>But I like ampan. What food do you like?</p> <p>T2 : I like tempura.</p> <p>T1 : Oh, I see.</p> <p>T2 : I like sushi. I like steak. I like hamburgers.</p> <p>T1 : What food do you like <u>the best</u>?</p> <p>T2 : I like tempura <u>the best</u>.</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>• the best を用いると, 何が一番好きかを速やかに伝えたり尋ねたりすることができる利便性を提示する。</li> </ul>
<p>3 Writing Activity (比較級や最上級を用いた英作文活動) ★③</p> <p>(1) Writing Questionnaires</p> <p>Controlled Composition を通じて比較級や最上級を用いた質問・応答の表現(アンケート形式のQ&amp;A)をモデルを用いて書いて表現する。</p>	15分 グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 理解が深まらず, 質問・応答の表現を書くことができない生徒には, モデル対話を聞かせたり説明したりして助言し, 支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ better / best が含まれた表現の形・意味・用法を理解できる。 (ワークシート・発表, 言語や文化についての知識・理解)</li> </ul>
<p>(2) Peer Feedback</p> <p>ワークシートに書いた比較級や最上級を用いた質問・応答の表現(Q&amp;A)を読んで対話の練習を行いながら, その表現の正確さをお互いにチェックする。</p>	5分 グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 時間を区切り, 4人グループの中でAペア(隣)・Bペア(前後)・Cペア(斜め)という形態で活動させることで, より多くの相手と対話練習やPeer Feedbackが行えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 正しい表現や相手に分かりやすい内容の英文を書いたり話したりしている生徒を称賛し, 自信をもって活動に取り組めるようにするとともに, 他の生徒がその生徒の表現を参考にして書いたり話したりするように促す。</li> </ul>
<p>4 Communication Activity ★②</p> <p>比較級や最上級を用いた質問・応答(Q&amp;A)を行う。</p> <p>約5分で次のグループに移動し, そのグループの中で再度対話を行う。移動を繰り返し, 新たなメンバーで活動することで, 発話量を増やす。最後は教室内を自由に動いて対話していない生徒と対話する。</p>	15分 グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 机間指導を通して, より正しくより多く話せているかを確認する。</li> <li>• 時間を区切り, 4人グループの中でAペア・Bペア・Cペアという形態で活動させることで, より多くの相手と会話することができるようにする。</li> <li>◎ コミュニケーション活動が活発に行われていないグループや積極的に取り組むことができなかったり正しく分かりやすく表現できていない生徒については, 活動に加わって表現のヒントを与えて支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ better / best を用いて自分や友達が好き人や物について他の人や物を比べながら描写できる。 (ワークシート・発表, 外国語表現の能力)</li> </ul>
<p>S1 : Which do you like <u>better</u>, rice or bread?</p> <p>S2 : I like bread <u>better than</u> rice.</p> <p>S3 : Which sport do you like <u>the best</u>?</p> <p>S4 : I like soccer <u>the best</u>.</p>			
<p>5 Conclusion (本時のまとめ) ★①</p> <p>ルーブリックを用いて自己評価を行い, 本時の学習活動での到達度を確認するとともに, 次時に向けての課題をもつ。</p>	2分 個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自己評価を通して達成度・課題を確認できるよう, 本時の活動における評価項目について具体的に助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 活動で良かった点(正しくできたこと・努力したこと)を伝えて称賛し, 生徒に自信をもたせる。</li> </ul>